



## 瑞宝双光章を受章

はなき さとる  
花木 悟さん(内池西)



保護司は、犯罪や非行を犯した少年や成人(対象者)と定期的に面接を行い、更生を図る約束事を守るための指導や生活上の助言等、社会復帰への援助を行います。

花木さんは平成5年から現在までの25年間にわたり、保護司として活躍され、現在も保護司として活動されています。このたび、長年の功績をたたえられ、春の叙勲で瑞宝双光章を受章されました。

### 将来を守る、大切な役割

花木さんが担当された対象者は25年間で約35名です。保護司が担当される多くは未成年で、「子どもの将来を守るためにも大切な役割だったと感じています」と話されました。

保護司は常に誰かを担当さ

れているわけではなく、担当する期間や犯罪、非行は一人ひとり違うので対応も様々あります。そのため保護司同士もつながって相談したり、保護司の資質向上のため研修会・学習会なども定期的に行われたいしているそうです。「担当する対象者の年齢も期間・犯

罪や非行も違いますが、面接期間が終わってからもお互い笑顔で会うことができるのがとてもうれしい」と話されました。

### 弱さがあるのが人間、

人ごとではない

「担当した人がちゃんと社会復帰してくれるとうれしいです」と花木さん。「犯罪や非行を犯した人にもそれなりの理由やそれぞれに背景があり、誰もしたくて犯罪を犯しているわけではありません。たとえば交通事故。悪い条件がそろってしまつと、誰にでも犯罪を犯してしまう可能性があり、誰にでもそついつた弱さがあるのが人間なので、周囲も理解していかうと努力する必要があります」と話されました。

また、「犯罪等を未然に防ぐべくためには、保護司だけががんばつてもだめで、地域や町みんなの理解を深めていかなければいけないと思います。これから保護司の活動は必要だと思えます。皆さんの理解をお願いしたいと思います」と話されました。

## 第55回滋賀県優秀農家表彰

(滋賀県知事賞)を受賞されました



5月31日(水)、滋賀県庁で第55回滋賀県優秀農家表彰式(京都新聞社主催)が開催され、加納文弘さん(川原)が滋賀県知事賞を受賞されました。今回の表彰式は、滋賀県内の優れた農業者を表彰するもので、県内から加納さんを含めて10名が受賞されました。加納さんは約30ヘクタールで水稻を生産されており、経営の改善や環境への配慮などに取り組まれていることが地域の模範となるものとして今回の受賞となりました。受賞、おめでとうございます。

## 日野町総合防災訓練を実施します

日野町地域防災計画に基づき、災害発生を想定し、町、消防等防災機関、福祉ボランティア、地域住民の参加協力のもとそれぞれの防災意識の高揚を目的に開催します。当日は同報系防災行政無線(屋外拡声器)による町内一斉放送をはじめ、避難訓練等さまざまな訓練を実施します。

お時間のある方は、ぜひ会場へお越しください。

**と き** 9月3日(日) 午前7時  
**と こ** 日野小学校グラウンド



※訓練当日は会場周辺を緊急車両が走行します。周辺住民の皆さんにはご迷惑をお掛けしますが、ご理解ご協力をよろしくお願ひします。

迅速・安全・的確 消防活動の基本技術を競う

## 第37回日野町消防団ポンプ操法訓練大会

7月2日(日)、日野川ダムグラウンドにて、消防技術の向上と消防団員の士気の高揚を目的に「第37回日野町消防団ポンプ操法訓練大会」が開催され、迅速、安全、的確に消防ポンプなどを扱ったための基本技術を競われました。

消防団員の皆さんは、優勝をめざし約1か月間、早朝訓練に励んでこられました。本番では、チーム全員が心をひとつにして訓練の成果を発揮し、見事なポンプ操

法を披露されました。出場されたどのチームも操法終了後はやり遂げた満足感、充実感でいっぱいの様子でした。

この大会を通して得た操法技術と団員同士の団結は今後地域の消防、防災活動に活かされることとしよう。

なお、結果は次のとおりです。優勝チームの皆さん、おめでとうございます。また出場された消防団員の皆さん、お疲れさまでした。

### 大会結果

#### 小型ポンプの部 優勝 第1分団 B

おかわら なおき  
岡村 直紀さん 太田 啓志さん  
ひろしま たかあき  
廣嶋 貴明さん 北浦 吉隆さん

#### ポンプ車の部 優勝 第1分団 23

たけうち りょうすけ  
竹内 良介さん 橋本 昌明さん  
きだ たけし 木田 武志さん 市岡 寛行さん  
とくい かずまさ 徳井 和昌さん



# 感雑向綿

2017年8月

日野町長 藤澤直広

NHK朝ドラ「ひよっこ」も後半になりました。これまでの朝ドラと違い主人公が「活躍」したり「出世」したりするのではなく、主人公は「普通の人」として周りにいる人たちに溶け込んでいます。「普通の人」がそれぞれの思いや悩みをもちながら真面目に生きていく姿が描かれています。

主人公の叔父の宗男は「普通」の農家の次男坊です。徴兵されビルマの山岳地帯からインド東北部を攻撃する「インパール作戦」に参加。武器弾薬も食料も十分に補給されない無謀な作戦。歩けなくなれば置いてきぼりになり死に至ります。日本軍の退却ルートは「白骨街道」とも言われました。宗男は、戦場でイギリス兵と出会い銃を構えますがお互いに「見逃し」、死を免れます。そのイギリス兵とビートルズが重なりファンになりました。窮地の戦場の臨場感と命の大切さが伝わってきます。

夏8月、ヒロシマ、ナガサキ。「普通」に暮らしていた何万人の人々が亡くなりました。

国連では日本政府や核保有国などが「反対」しましたが「核兵器禁止条約」が採択されました。核兵器廃絶は、唯一の被爆国である日本をはじめ世界中の「普通の人」の共通の願いです。「普通の人」が政治を大きく動かしたのは東京都議会選挙。自民党が「歴史的惨敗」。加計学園・森友学園問題、共謀罪の強行など「秋の臨時国会に自民党憲法改正案を提出する」と表明し「憲法を変える」ことに執着する首相の姿勢に対する批判も根底にありました。そもそも、憲法99条には首相はもちろん議員や公務員の憲法遵守義務が規定されているのです。

青い夏空、白い入道雲、ヒマワリの花、蝉の声……「終戦記念日」「戦没者追悼式」、二度と戦争をしないと誓う日。今年も日本国憲法施行70周年。憲法改正、共謀罪、教育勅語、安保法制、特定秘密保護法、集団的自衛権……戦前回帰をめざすような動きに対し、平和を願うたくさんさんの「普通の人」の団結の輪を広げましょう。